千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第45週（11/4-11/10）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		45週	44週	43週	42週
	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	千葉市 11/4-11/10 45週	千葉市 10/28-11/3 44週	千葉市 10/21-10/27 43週	千葉市 10/14-10/20 42週	千葉県 10/28-11/3 44週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	1 0.06	3 0.17	4 0.22	31 0.23
	咽頭結膜熱		5 0.28	7 0.39	12 0.67	0 0.00	55 0.41
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	39 2.17	28 1.56	32 1.78	26 1.44	429 3.20
	感染性胃腸炎		50 2.78	42 2.33	54 3.00	50 2.78	333 2.49
	水痘		2 0.11	11 0.61	1 0.06	2 0.11	49 0.37
	手足口病		23 1.28	29 1.61	23 1.28	30 1.67	243 1.81
	伝染性紅斑		5 0.28	9 0.50	8 0.44	4 0.22	67 0.50
	突発性発しん		10 0.56	6 0.33	7 0.39	11 0.61	35 0.26
	ヘルパンギーナ		1 0.06	10 0.56	10 0.56	5 0.28	45 0.34
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	2 0.11	1 0.06	3 0.02
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		18 0.64	27 0.96	23 0.82	8 0.29	200 0.94
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	3 0.60	1 0.20	1 0.20	19 0.54
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（4件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	女性	10歳代	ツベルクリン反応等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認、起因菌の判定
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出				
百日咳	男性	40歳代	抗体の検出	－	－	－	－

・第45週は、　結核1件（140）、レジオネラ症1件（14）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件（16）、百日咳1件（130）の報告があった。

※　（）内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

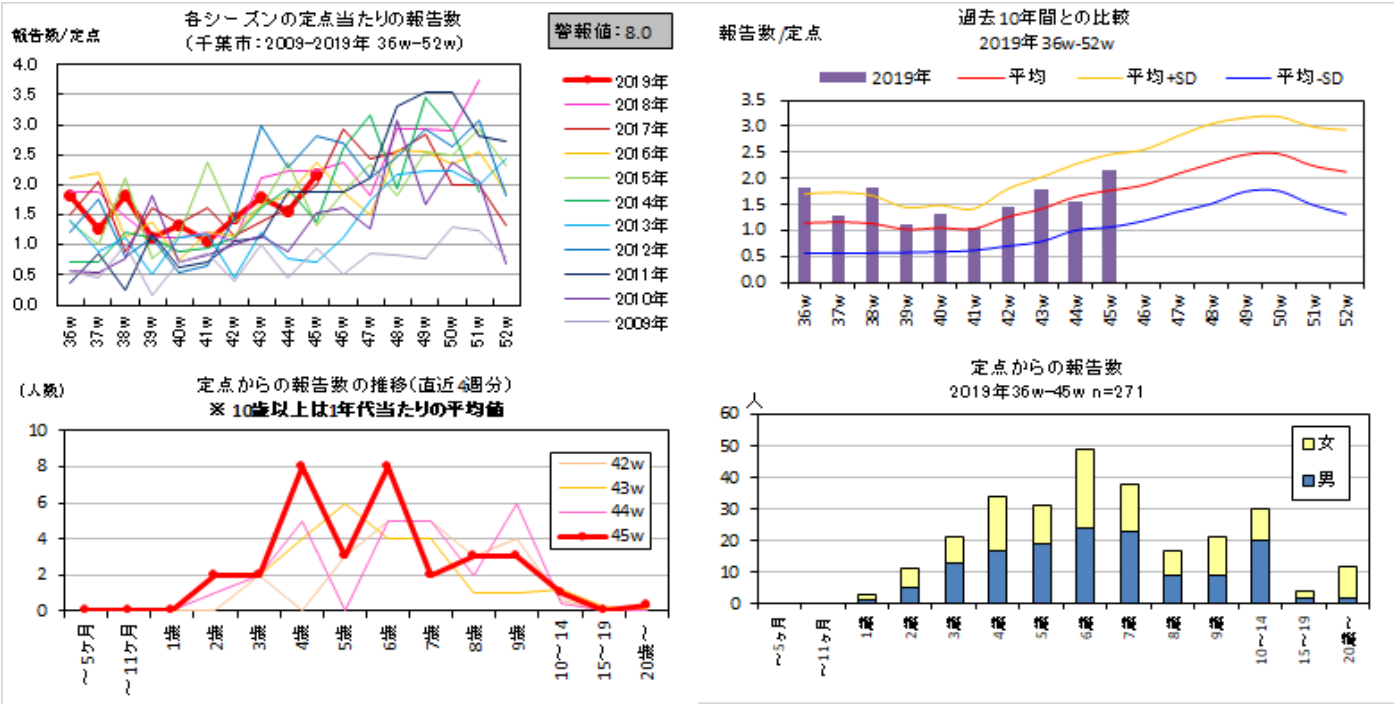
定点当たり報告数　第45週のコメント

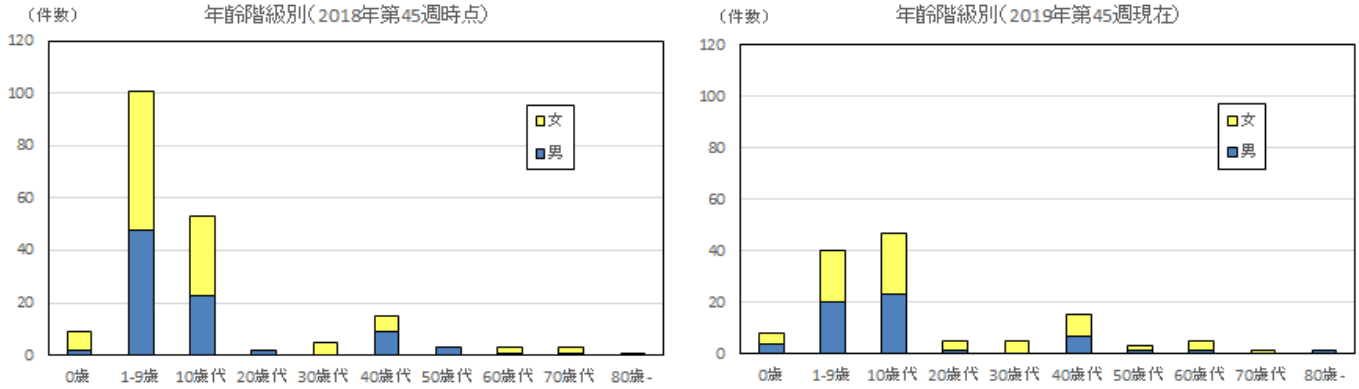
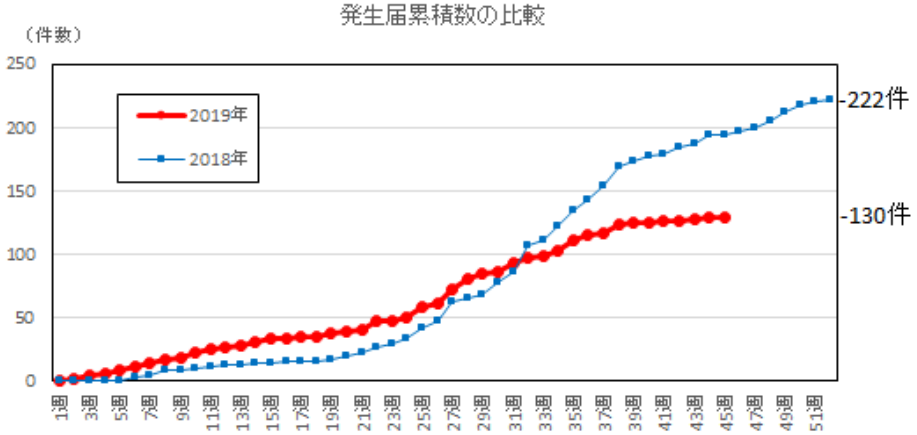
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し2.17となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第44週の定点当たりの報告数は2.07となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では山形県、新潟県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は3.20で、全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市の第45週は前週より増加し2.17となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、稲毛区（3.67/定点）で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第45週までの累積報告数は271件で、性別では男性が53.1%（144名）、女性が46.9%（127名）となっており、年齢階級別では6歳（18.1%：49名）、7歳（14.0%：38名）、4歳（12.5%：34名）の順で多くなっています。



＜百日咳＞

全国レベルの第44週の累積報告数は14668件で、昨年の同時期と比べるとおよそ1.7倍となっています。都道府県別では関東地方、中部地方、九州地方の順で多く、東京都（1183）、福岡県（900）、静岡県（878）の順で多く報告されています。千葉県（782）は全国第4位となっています。千葉市では、年頭から昨年を上回るペースで発生届が報告されていましたが、第32週に逆転し第45週現在の累積報告数は130件で、昨年の同時期の195件に対し少なくなっています。性別では男性が44.6%（58名）、女性が55.4%（72名）で、年齢階級別では10歳代（36.2%：47名）、1歳-9歳（30.8.%：40名）、40歳代（11.5%：15名）の順で多くなっており、昨年の同時期と比べると男女比はほぼ同等で、年齢階級別では0歳及び10歳代から60歳代の比率が増加しています。